

ICT活用工事（ICT土工・受注者希望型）
に関する特記仕様書

本工事は、受注者が「ICT活用工事」を希望する場合に、受発注者協議（別紙1）により、3次元データを活用するICT活用工事を実施することができる。

なお、ICT活用工事の対象範囲及び実施内容は、協議書に記載するものとする。

（定義）

第1条 ICT活用工事（ICT土工）とは、以下に示す(1)～(5)全ての施工プロセスにおいてICTを活用する工事である。

- (1) 起工測量
- (2) 3次元設計データ作成
- (3) ICT建設機械による施工
- (4) 出来形管理等の施工管理
- (5) 3次元データの納品

（ICT施工技術の具体的内容）

第2条 ICT活用工事は、ICTを活用して、以下の施工を実施する。

(1) 起工測量

受注者は、以下の1)～8)、または、中心線・縦断・横断等の確認のための測量から手法を選択して3次元座標を取得し、計測データを作成する。

なお、発注者が提供する航空レーザ測量等の3次元計測データを活用することで計測を行わない場合においても、そのデータを活用して(2)以降の施工を実施することで、起工測量を実施したものと同等とみなす。

- 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
- 2) レーザースキャナーを用いた起工測量
- 3) トータルステーション等光波方式を用いた起工測量
- 4) トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
- 5) RTK-GNSSを用いた起工測量
- 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 7) 地上型移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量

(2) 3次元設計データ作成

受注者は、(1)で取得した計測データと設計図書を用いて、ICT建設機械による施工及び3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。この3次元設計データと起工測量計測データを用いて数量算出を行う場合は、土工に関する横断面図は不要とする。

(3) ICT建設機械による施工

受注者は、(2)で作成した3次元設計データを用い、以下に示すICT建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。

1) 3次元MCまたは3次元MGブルドーザ

ブルドーザの排土板の位置・標高をリアルタイムに取得し、ICT建設機械による設計データとの差分に基づき制御データを作成し、排土板を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、ブルドーザの排土板の位置・標高をリアルタイムに取得し、ICT建設機械による設計データとの差分を表示し、排土板を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いる。

2) 3次元MCまたは3次元MGバックホウ

バックホウのバケットの位置・標高をリアルタイムに取得し、ＩＣＴ建設機械による設計データとの差分に基づき制御データを作成し、バケットを自動制御する３次元マシンコントロール技術または、バックホウのバケットの位置・標高をリアルタイムに取得し、ＩＣＴ建設機械による設計データとの差分を表示し、バケットを誘導する３次元マシンガイダンス技術を用いる。

(4) 出来形管理等の施工管理

受注者は、(3)による工事の施工管理において、以下の１)～10)から選択して、面管理による出来形管理を行うものとする。

- １) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理
- ２) レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ３) トータルステーション等光波方式を用いた出来形管理
- ４) トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理
- ５) ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理
- ６) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ７) 地上型移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ８) 施工履歴データを用いた出来形管理
- ９) 地上写真測量を用いた出来形管理
- 10) その他の３次元計測技術を用いた出来形管理

(5) ３次元データの納品

３次元施工管理データを工事完成図書として電子納品する。これと別に、静岡県完成形状の３次元計測実施要領（案）（静岡県）に基づき、工事完成時に完成形状の３次元計測を行い、計測点群データ（LAS形式）をオンライン型電子納品システム（<https://mycityconstruction.jp/>）に登録し、原則として公開に設定するものとする。

なお、完成形状の３次元計測は、３次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（国土交通省）に定められた出来形計測に準じて実施してもよい。

また、構造物等の施工がなく、土工の完成形状と工事の完成形状が同一である場合は、出来形管理の計測データを完成形状の計測データとみなす。

（ＩＣＴ活用工事に関する経費）

第３条 １． ＩＣＴ活用工事に伴う経費は、設計変更の対象とし、ＩＣＴ活用工事（土工）積算要領、ＩＣＴ活用工事（砂防土工）積算要領に基づき費用を計上する。

２． 無人航空機、または、地上型レーザースキャナーを用いた起工測量、及び、３次元設計データ作成は、技術調査課で定めた単価により費用を積算する。このうち、起工測量の面積は、受発注者協議により決定した起工測量の必要となる計測範囲に対して計上するものとする。また、３次元データ出来形管理費・３次元データ納品費、外注経費等については、無人航空機、または、地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理を実施する場合は、見積書（参考様式）をあわせて提出することとする。見積書の提出がない場合は、３次元データ出来形管理費・３次元データ納品、外注経費等の積算計上は行わない。

なお、起工測量においても、無人航空機、または、地上型レーザースキャナーを用いた手法以外は、積上げ積算計上は行わない。

３． 掘削工（河床等掘削を含む）のＩＣＴ建設機械による施工は、施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ＩＣＴ建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。

受注者は、ＩＣＴ施工に要した建設機械（ＩＣＴ建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督員へ提出するものとする。なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の２５％をＩＣＴ建設機械の施工数量として変更するものとする。

第4条 (作業土工(床掘)におけるICT活用) 作業土工(床掘)において、ICT建設機械による施工を行う場合は、ICT活用工事に伴う経費を設計変更の対象とし、ICT活用工事(作業土工(床掘))積算要領に基づき費用を計上する。

(法面工におけるICT活用)

第5条 法面工において、3次元出来形管理等の施工管理を行う場合は、ICT活用工事に関する基準(法面工)に基づき実施するものとする。

(付帯構造物設置工におけるICT活用)

第6条 付帯構造物設置工において、3次元出来形管理等の施工管理を行う場合は、ICT活用工事に関する基準(付帯構造物設置工)に基づき実施するものとする。

(用語の定義)

第7条 ICT活用工事において、図面とは、設計図、3次元地形データ、3次元設計データをいう。なお、設計図書に基づき監督員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し監督員が承諾した図面を含むものとする。

(工事成績)

第8条 ICT活用工事を実施した場合は、「創意工夫」項目で加点するとともに、「各種取組による加点」項目で1点加点する。

(監督・検査)

第9条 ICT活用工事を実施する場合の監督・検査は、国土交通省・静岡県が定めた表1及び関連要領等に示すICT活用施工技術に関する基準により行うものとする。
関連要領等：https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html

表1 ICT活用施工技術に関する基準

段階	名称
施工	土木工事施工管理基準(案)(出来形管理基準及び規格値)
	土木工事数量算出要領(案)
	土木工事共通仕様書 施工管理関係書類(帳票：出来形合否判定総括表)
	静岡県施工履歴データによる土工の出来形管理要領(案)
検査	地方整備局土木工事検査技術基準(案)
	既済部分検査技術基準(案)
納品	静岡県完成形状の3次元計測実施要領(案)
土工	静岡県ICT活用工事運用ガイドライン土工編(案)

※施工履歴データは、原則として県の基準を用いるものとする。

(アンケート)

第10条 工事完了後、以下のURLよりアンケートに回答することとする。
<https://forms.gle/u4fN283k4dJtKCtg9>

